

令和 6 年 第 5 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 6 年 5 月 17 日（金） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後 2 時 00 分
- 6 令和 6 年第 4 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
舟山委員、一盃森委員 署名。
- 7 教育長報告
（１）一般事務報告 なし
（２）専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第 25 号 大河原町駅前図書館司書の任命について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。
- 9 その他
（１）教育長報告
1 夢を叶える力（菊間千乃）
元アナウンサーで現在は弁護士。志教育の見本となるような方である。学校の先生方には「教えるという視点ではなく、子供たちの疑問に答える、子供たちが面白いと自ら学びたいと思えるようになる視点で授業をしてほしい」とのメッセージ。子供たちが自ら探究し調べる授業をしてほしい。

2 コントも小説もやりたいことはつながっている（又吉直樹）

「言葉とは身体表現」「コントにも小説にもエッセイにも、言葉を使っておもしろいことをするということがつながっている」又吉さんしか言えないフレーズである。

3 不登校は親の責任か（大島佳代子）

不登校対策は、学び自体を保障するという学習権の観点から立案されるべきで、誰がどこでどのような役割を担うのかといった連携のための具体的な仕組みの構築も求められると説く。

4 数学的な見方・考え方に基づく個別最適な学び（牧野智彦）

個別最適な学びを数学的な見方・考え方で述べている。三角形を例に、三角形を分類するときの着目点について論じている。自分に合うように変えたり、逆にその見方・考え方に合わせるように自分を変えたりしながら、個別最適な学びが徐々に進展していく、と説いている。

5 次の感染症への備え（藤川大祐）

端末が一人一台に配付され、学校と家庭を繋ぐことが大事。オンラインでいつでも繋がるようにしてほしい。

6 一体的な充実を実現する2つの在り方（奈須正裕）

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るにはどうすればよいかを、研究実践を取り上げ、説いている。次期学習指導要領の改訂に向け国でも動いており、今後言葉として出てくる。

7 NHK スペシャル『学校のみらい～不登校 30 万人から考える』

児童生徒が自由にやれる選択肢を増やす、いろいろな子が自分に必要な学びができるなど、「学校のあり方」を根本から考え直すことで、児童生徒の不登校を減らすことができるのではないか、という番組。学びの場をどうするか。大切なのは子供たちの選択肢を増やすこと。学校が変わる部分、変えなくても良い部分の議論が必要。

8 『「学び合う学び」が深まる時』（石井順治）

「一斉授業は、本来の学びも学ぶ喜びももたらさない」と断言している。「学び合う学び」とは、子どもが互いの考えや疑問を交わしながら学ぶ学びで、行為の主体は学ぶ子どもにあることが大切。

9 中学校の風景を一新した校長（佐藤学）

教師主導の一斉授業は、もはや児童生徒一人取り残さない教育には決してならないと認識し、子供たちがグループで学ぶ、対話的・協働的な学びこそが、全ての児童生徒に質の高い学びを保障する教育方法であることを自覚しなければならない。

10 その他

学校運営協議会、志教育講演会、土曜子供塾、南小放課後子供教室について資料により説明。

丹 羽 委 員	菊間千乃さんの話。学校の先生方に対するメッセージが素晴らしい。大変なことを楽しむ。努力した方が言える言葉だと思う。 又吉さんの話も同じようなことを言っている。自分の向かっていることに対して、楽しむことがとても大事だと思う。 親になれたことの喜び、先生になれたことの喜び、子がいるからこそ親になれる。また、生徒がいるからこそ先生になれる。子供たちのおかげで先生としていられる謙虚な気持ち、感謝の気持ちを持って、教育にあたってもらいたい。楽しんでほしいということに繋がるのではないかなと思う。
舟 山 委 員	石井先生の話。学び合う学び、学びの本質。とても感動した。学ぶということは、言語化できなくて学んでいることが多い。特に低学年の子は自分の思いとか、学んだことが言えないのではないかなと思う。低学年の先生方は、子供たちを見る目を付けておかないと、指導も難しいと思う。
一 盃 森 委 員	菊間さんの話。成功体験のことは、どのような子にとっても、とても大事なことである。周りの大人から認められるとか、褒められたりする経験を経ることが大事で、次に繋がってくる。「もっと」という心持ちは大事。 授業づくりを進めていく上で、先生方も成功体験が大事。協働的な学び、個別最適な学びなど、自分が思い描いていた授業が、どうすれば、子どもたちに学びを深めさせることができるのかに早く気付いてほしい。感じ取ってほしい。 できないと、どうしても、今までの自分の殻から抜け出せない。教員はそれぞれ、自分のスタイルを持っている。自分のスタイルが必ずしも、求められている形として相応しくないことがある。このことから、成功体験が必要である。 又吉さんの話も、自分がやってきたことを自分で検証して、求められていることに近づいていく。その繰り返しである。 石井先生の話。これからあるべき授業の姿。急に出てきて示されたことではなく、これまでも言われて私たちがやってきたことがベースにある。個別最適化。山形の例。子どもが一人一人テーマを持って、探究して、子ど

	もなりに結論を出していく。このようなことも大事だが、周りに広めて意見をいただいて、やり取りをして、その中で、もう一回やってみようとかの繰り返しが大切なんだと思う。その子にとっての、深まり、高まり、広まりなどが、その子だけの伸びしなくなる。
丹 羽 委 員	成績がすべてではない。すべての人間が価値のある一人だという事を、教育の中で示すことができればとても良いと思う。問題のある子ほど、良い所を見つけてあげるのが教育ではないか。
一 盃 森 委 員	山形の例で、2割は学び方を選択する学習。8割が一斉授業での学習。8割で他の学校と同じような全国学力テストを解かせる学びをするには、先生方の負担がとても大きい。義務教育の中でどこまでできるのか疑問である。
片 倉 委 員	菊間さんの成功体験の話。娘を見ているような感じがする。失敗した時でも、担任の先生がすごい褒めてくれて、自分でもやれるのではないかというのが積み重なっていつている。先生に褒められたことが支えになって、学校生活が楽しくなっている。 石井先生の学び合う学びの話。子どもが、分からないことがあっても、恥ずかしがらずに言えるようになった。分からない時は、友達に聞いたりとかしている。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和6年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和6年6月6日(木)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時15分

令和6年6月6日

署名委員

署名委員